

北州の地勢と山川

なく、南部に小樽灣及び積丹半島あり。積丹半島には、積丹岬・神威岬あり。神威岬を距る數百間の處に、オセカイ岩及びメノコ岩あり。土人以て神となし、通舟帆を下して過ぐ。

北州の地勢と山川 北州にては、蝦夷山系・千島帶火山脈と十字形に交叉して、分水界をなし、諸川四方に分流し、巨大なる高原・平野を形成す。蝦夷山系は、東北山脈と日高山脈とより成る。宗谷岳・天鹽岳等は、前者中に在りて、夕張岳・芽室岳等は、後者中に在り。千島帶火山脈は、千島群島より、北州に入り、良牛山・斜里岳・跡佐登雌・阿寒岳・雄阿寒岳・ヌタップカウシベ・石狩岳・十勝岳・オブタラシケとなり、蝦夷山系に交錯す。湖水多く、温泉所々に涌出す。西部には、又、渡島山脈恵山・駒ヶ岳等之に屬す、後志山塊マクカリ岳等之に屬すあり。北州の域内には、此れ等の群山あれども、原野又甚だ多く、石狩原野・天鹽川の流域、十勝原野等、最も著名なり。十勝・釧路・根室は、概ね高原とす。石狩川・天鹽川・十勝川を北州の三大河と稱す。石狩川は、河口より六七十里の間汽船を通すべし。天鹽川、亦、數十里の間、小汽船を通することを得べし。北州の地たる、廣野漠として、地味饒かなり。開拓能く成らば、實に、我が國の大寶庫たるや、必せり。今、北州本地を一面の平地と假定し、一日十里の行程を以て、納紗布岬より、西に向かひ、神威岬に至るには、凡そ十二日を要するなるべく。又、宗谷岬より、南に向かひ、襟裳岬に至るには、凡そ十一日を要するなるべし。

北州の天産と産業

北州の天産と産業 北州は、實に、天然の產物に富み、森林多くじて良材を出だし、又、大原野ありて、農業・牧畜に適す。特に鑛産多し。現時、盛んに採掘せらるゝは、石炭・硫黃の二種にして、渡島・石狩等には、石油の產、後志には、滿鐵の產あり。開拓未だ到らざるを以

て、米・麥の產少なく、茶も亦、渡島に少量の產出あるのみ。石狩は、大に麻を產し、膽振・石狩には、甜菜の產あり。工業は、未だ盛んならざれども、水產の利は、海内に比なく、鯨・鮭・鰐・昆布・鱈は、實に、北州の大富源とす。北州の近海にては、鯛は、概して、日本海面の方に豊かにして、昆布は、東南岸、即ち、千島寒流の區域内に多く產す。



全區括論

日本帝國の地勢 我が帝國の地は、樺太山系、崑崙山系の兩隆起帶によりて構成せらる。此の兩山系の相結合する所は、即ち、富士帶火山脈の在る所にして、此れより以南の地を、南日本と名づけ、以北の地を、北日本と名づく。又、主要ある縦斷線ありて、日本を、表面裏面の二部に分かつ。之を中心線又、中央凹地帶といふ。裏面は、即ち、日本海に面する地方にして、表面は、即ち、太平洋に面する地方なり。北日本を構成せる主要なる隆起帶は、樺太山系にして、一に日本北彎を稱す。南日本を構成せる主要なる隆起帶は、崑崙山系にして、一に日本南彎を稱す。

北日本の表面にては、樺太山系、北州の北端に見はれ、蝦夷山系と稱じ、同島の中央部に於て、千島帶火山脈のために、横斷せられ、本

州に入りて、北上山系・阿武隈山系となり、關東山彙に關聯す。北日本の裏面は、分水山脈、北州西南部の火山脈と氣脈を通じ、出羽山脈之に並行して、其の西に在り。出羽山脈の西に方り、又彌彦火山脈あり。北日本の表面に於ける山嶽は、一體に低けれども、裏面は、日本全國中、最も錯雜にして、尤も大なる變動を受けたる地方にして、高山秀嶺甚だ多く、火山温泉に富めり。

南日本にてば、表面の隆起帶は、南日本外帶山脈と稱し、裏面の隆起帶は、南日本内帶山脈と稱す。南日本外帶山脈は、九州にて、九州南部山脈と稱し、四國にて、四國山系と云ひ、本州に入りて、紀伊山系・赤石山系と云ふ。南日本内帶山脈は、九州にて、九州北部山脈と稱し、本州に入りて、中國山系となり、濃飛高原より、飛驒山脈・木曾山脈に連及す。又、日本海の沿岸に當たり、殆んど東西に連なる火山脈に連及す。

山脈あり、之を白山火山脈と云ふ。其の北に方り、能登火山脈あり。又、九州より、四國・本州に亘りて、阿蘇火山脈あり。南日本の裏面は、其の裏面に比すれば、噴火の顯象及び地體の變動、甚だしこと雖も、北日本の如く甚たらしからず。

日本帝國に於ける大火山脈は、富士帶・千島帶等の外、九州の地に、又、霧島帶あり。此の火山脈は、遠く澎湖島に起り、琉球群島より、進みて、九州に入れるものとす。

今、日本全國の地にして、七千尺の陥没ありと假定するときは、本州にては、中央部に群島を形成し、東北地方の殆んど全體及び西部地方一體、凡て海となるべし。即ち、其の群島として、見はるゝものは、富士帶火山脈・飛驒山脈・赤石山系中の高峯及び岩手・日光・鳥海・白根^{上信}・四阿・淺間・甲武・信濃・司金峯・白山等の山嶽な

るべし。四國にては、石鎚山・劍山の頂嶺、島となりて形現し、其の
他は、凡て水面となるべく、又九州にては、全體皆な海となるべ
く、北州にても、全形概ね没して海となり、唯た一島を残すのみ
なるべし。其の島となるものは、ヌタブカウシベの山頂なり。然
れども、臺灣にては、尙ほ玉山山系中の高峯、多く島となりて形
現すべし。今又日本全地にして、一萬尺の陥沒ありと假定する
ときは、北州・四國・九州の地、皆な全く海となり、本州に於て、富士。
穗高・御嶽・乗鞍・白嶺・赤石・鎗ヶ岳等の諸峯、島となりて、見はれ、臺
灣に於て、新富山・畢綠山等、亦島となりて見はるゝのみなるべ

要するに我が國は、山國にして、到る所、山巒巒結し、南北兩轡の相接合する邊山嶽最も高峻なり。平地は、至りて少なく、僅かに總面

積の九分一を占むるのみ。河は山多きを以て、從ひて多けれども、地幅狭きを以て、大河を形成する能はず。

日本帝國の氣候 我が邦は、山秀で水清くして、地味肥え、實に寰宇無雙の美國なりとす。其の氣候、又、頗る溫和にして、冬夏の溫度に著しき差なし。然れども、地形狹長なるを以て、所によりて、寒暖を異にせり。概して、南地は、暖かにして、北地は、寒也。即ち、南日本は、氣候、概ね、溫暖にして、其の南端臺灣には、熱帶性の動植物を有す。之に反し、北日本は、氣候、概ね、寒暑の差甚たるを多く、北端千島には、寒帶性の動植物を産し、殊に美麗なる毛皮を有する動物あり。

全國一年の平均溫度は、略ぼ華氏五十四度半にして、北緯三十一度に於ける、平均溫度は、同六十三度半、北緯四十度に於ける平均溫度は、同五十度なり。概して、寒氣の差は著しけれども、暑氣の差は、著じからず。平均溫度の最高なるは、臺灣、琉球地方基隆七一六とし、最低なるは、北州の上川地方北見八三、とす。上川は、最寒の時、華氏寒暖計零以下三十六度餘に達したることあり。

我が國の氣候は、又、海流のために、支配せらるゝこと少なからず。

我が國の近海を流るゝ海流に、數派あり。黑潮、即ち、黒瀬川は、有名なる暖流にして、一に日本海流と稱す。臺灣の南端近傍に發し、北東に進み、宮古島の北方にて、二派に分かれ、其の本派は、九州の南端を過ぎ、四國・本州の南岸に沿ひて進み、犬吠岬邊にて東方に折る。又、其の分派は、九州の西岸を過ぎ、對馬海峽より、

で、日本海に入り、東北進し、一小分派を津輕海峽に出たらし、大部は、更に北州の西岸を過ぎ、宗谷海峽より、オコック海に入り、知床岬に至りて消滅す。之を對馬海流と稱す。親潮、即ち、千島海流は、オコック海の東北隅に發し、千島諸島を洗ひ、北州の東南岸、本州の東岸に沿ひて進み、犬吠岬邊にて消滅す。此の海流にも、津輕海峽を經て、日本海に入るの一小分派あり。又、來滿海流は、オコック海の北西に起り、日本海の北西部を流れ、朝鮮海峽に達し、津輕海峽より來れる親潮の小分派と合し、進みて臺灣海峽に達す。來滿海流の、樺太島の北端に於て、一派を出たらし、同島の東岸に沿ひて進み、宗谷海峽より來る對馬海流に會して、其の形跡を失するもの、之を樺太海流と稱す。親潮及び來滿海流は、共に寒流なり。

要するに、黒潮に洗はるゝ所は、其の地の氣候溫暖にして、親潮に洗はるゝ所は、其の地の氣候寒冷なり。即ち、北緯三十七度以北の地にて、一年の平均溫度に於て、西岸の東岸より甚だ暖かなるもの、前者は、對馬海流の影響を受け、後者は、親潮の影響を受くるを以てなり。

我が國にては、夏日は、南東風多く、冬日は、北西風多し。此の兩風の交換する節、即ち、六月九月には、雨多し。六月の雨は、世に梅雨と稱するものにして、淫霖久しきに亘るを例とす。而して、我が國にては、八九月の頃、颶風あるを常とす。此の颶風は、支那海に起り、東北に進み、九州・四國の邊より、斜に本州を通過し、北州に及ぶこと多く。太平洋面は、日本海面よりも、此の災を蒙ること數はなり。農家にて、懼るゝ所の厄日、即ち、二百十日・二百二十日は、蓋し、此の暴

風襲來の節に當たるものなり。全國を通じて、降雨の多量なるは、紀伊半島の南部、四國・九州の南部、能登半島附近にして、其の寡少なるは、瀬戸内海、本州中央部及び北州とす。

日本帝國の天産・産業　我が邦は、寒暑強からず。又、降雨に乏しからざる好風土なるを以て、天產甚だ豊かにして、寔に有數の樂土なりとす。今、全國を通じて、天產配布の狀を按するに、日本の面積中、田地・山林等、多少收益ある所は、全面積の十分六にして、耕地一、三・山林四、〇・牧場又は秣場に使用する原野〇、五家宅、鹽田、池沼等〇、二の割合とす。山林は、總面積三千五百萬町にして、民林七、官林二、御料林一の割合なり。全國中山林の多さは、東山道を第一とし、東海道之に亞ぐ。米は、全國にて產する所、略は四千五百萬石にして、其の内、六十萬石は、海外に輸出し、一百萬石は、酒造に費

やし、殘餘は、内地の需要に供す。米の產額多きは、新潟縣・兵庫縣・福岡縣にして、北州は頗る少なし。北州は、此の天產に乏しきに非ず。開墾未だ至らざるなり。地味上、最も米產に適せるは、尾張・河内等にして、質は、肥後・筑前を以て、最も佳良とす。米の過剩多きは、越後を第一とし、米の不足なるは、武藏を第一とす。麥は、全國にて、產する所、米の略は半ばにして、產額は、埼玉縣・茨城縣・首位を占め、地味上、之に適せるは、武藏・尾張・讃岐等とす。北部地方と降雨多き地方とは、麥の產に適せず。麥の過剩多きは、常陸とす。各種の麥中、最も多額を占むるは、大麥にして、裸麥之に次ぎ、小麥は、又、之に次ぐ。茶は、全國一年の產額、略は八百六十萬貫にして、產額多きは、靜岡縣・京都府とす。茶は、氣候の暖かなるを要するが故に、奥羽地方・北州等は、之を作るに適せず。質は、山城を以て最も佳とす。煙草は、全國

にて產する所、略は九百四十萬貫にして、產額多きは、茨城縣・福島縣・鹿兒島縣とす。地味上、煙草に最も適せるは、常陸・和泉・備中・阿波・大隅・薩摩にして、煙草の著名なる產地は、概して北緯三十八度以南の東岸地方に限れるが如しと云ふ。綿は、全國にて產する所、略は千二百萬貫にして、產額多きは、大阪府・愛知縣を首とし、地味最も之に適せるは、河内とす。綿は、暖地に適し、東山・北陸兩道の諸國に少なく、西海道の諸國、亦多からず。北海道にては、之を作るを得ず。

麻の產額多きは、栃木縣・廣島縣・北海道にして、下野の地味、最も其の產に佳なり。其の栽培するものは、大麻を多しとす。苧麻は、米澤地方・臺灣に多く、亞麻は、北州に多く、黃麻は、臺灣に產す。全國にて、大麻の產額、略は三百萬貫あり。藍は、全國にて、產する所、略は二千

萬貫にして、產額多きは、徳島縣・愛知縣也。地味之に適せるは、阿波を第一とす。製糖の產多きは、香川縣を第一とす。特に白石を宣じとす。鹿兒島縣ば、黒砂糖に於て、首位を占む。全國各種の製糖額、略は千四百萬貫にして、製糖の原料は、主に甘蔗と甜菜となり。甘蔗は、暖地の植物にして、甜菜は、寒地にて、能く生長す。砂糖は、和歌山・徳島・愛媛・靜岡・高知・沖繩の諸縣、又、產多し。其の他、產額多き點に於て、大豆は、茨城・長野・埼玉の諸縣を推し。粟は、熊本縣。黍は、愛知縣。蕎麥は、鹿兒島縣・茨城縣を推し。甘藷は、鹿兒島・長崎・熊本・愛媛の諸縣を推し。蜀黍は、愛知・千葉・岐阜・新潟の諸縣を推す。

養蠶の業は、近來甚だ盛んなるに至れり。蠶卵・紙產出高の多きは、長野・福島・滋賀・群馬諸縣を首とし。繭及び蠶絲產出高の多きも、亦長野・群馬・福島諸縣を首とす。牧畜の業は、未だ盛んならざれども、

馬は、九州の南部・東北地方の東部に多し。現時、十萬頭以上の馬を飼養するは、鹿兒島縣・岩手縣・熊本縣にして、福島・秋田・青森・宮崎・宮城諸縣之に亞ぐ。其の良種なるは、東北の產とす。又、八萬頭以上の牛を飼養するは、廣島縣・岡山縣にして、兵庫・鹿兒島・大分諸縣之に亞ぐ。其の良種なるは、但馬・因幡・伯耆・出雲・備後・肥前等の產とす。豚は、九州の南部・臺灣・東京府・千葉・神奈川諸縣・北海道等にて飼養し、養禽は、上總・中國の小部・西南諸國に行はるれども、其の勢、微々たり。漁業は、到る所甚だ盛んにして、特に北海道・千葉縣を第一とす。製鹽は、瀬戸内十州に如くものなし。

我が國の鑛產中、其の產額の最も多きは、銅にして、硫黃・銀・鐵・石炭之に亞ぐ。全國中、鑛產物に最も富めるは、東山道にして、金は、佐渡。鹿兒島縣・秋田縣・但馬に多く産し。銀は、秋田・岐阜・福島の三縣・佐渡。

但馬に多く産し、銅は、栃木・愛媛・岡山・石川・新潟の諸縣に多く産し、鐵は、岩手・島根・鳥取・廣島の諸縣に多く産し、石炭は、福岡縣・長崎縣・北海道・佐賀縣・山口縣の諸地方に多く産す。臺灣又大に其の產に富む。石油は、越後を推し、硫黃は、釧路を推す。

產業に於ては、醸酒は、兵庫縣を主とし、愛知・長野・福岡・大阪・京都・岡山の諸縣に、又盛んなり。醬油の醸造は、千葉縣を第一とし、兵庫・岡山・愛知諸縣之に亞ぐ。絹織物業の最も盛んなるは、京都府にして、福井・群馬・栃木・山梨・東京・滋賀・福島・石川・新潟・埼玉・山形・岐阜の諸府縣、又盛んなり。木綿織物業の最も盛んなるは、愛知・和歌山・埼玉・大阪・京都・愛媛・奈良・德島等にして、福岡・新潟・栃木・山口・岡山・兵庫の諸縣も、亦盛んなり。綿絲の產額多きは、大阪・岡山・愛知・東京・三重の諸府縣を主とす。麻織物業の盛んなるは、大阪・滋賀・奈良・福井・新潟・石

川・廣島の諸縣とし、染物業の盛んなるは、京都府・愛知縣・福岡縣とす。疊表・花席類の製造は、大分・廣島・岡山・福岡の諸縣を推し、紙類の產額多きは、高知・靜岡・鹿児島・岐阜・廣島・愛媛等の諸縣あり。革類の製造は、兵庫縣・東京都・大阪府に行はる。陶磁器の製造は、佐賀・岐阜・愛知・石川諸縣・京都府を首とし、燐寸の製造は、大阪・兵庫・東京の府縣に盛んなり。燐寸・軸木の上等なるものは、北州・奥羽地方より之を出たす。

外國貿易と内地商業　横濱・神戸は、實に我が國の大港にして、横濱の東京に於けるは、神戸の大坂に於けるが如く、兩者相互の關係相同じく、長崎・函館又至要の貿易港たり。大阪は、貿易の形勢、往時の如く盛んならず。新潟も、亦信濃川の泥砂、年々河口を埋め、貿易更に振はず。貿易港中、輸出價額の最も多きは、横濱にして、

明治二十九年には、六千一百萬圓に上れり。之に亞けるは、神戸・長崎とす。輸入價額の最も多きは、神戸にして。明治二十九年には、八千二百萬圓に上れり。之に亞けるは、横濱・長崎とす。長崎は、輸出入に於て、横濱・神戸に劣れども、船の出入は、之に優れり。特別輸出港中にては、下の關首位を占め、口の津之に亞ぐ。全國を通じて、輸出價額の最も多き物品は、生絲類絹布類・茶類・穀物及び粉類とし、輸入價額の最も多き物品は、綿類砂糖類・毛絲及び毛織物とす。

内地商業にては、米及び清酒、最も勢力あり。現時、全國四十六箇所に商業會議所を置く。銀行には、日本銀行・正金銀行の外、勸業銀行、一、國立銀行百二十一、私立銀行千〇〇五、貯蓄銀行百九十三あり。東京の關東諸國に於けるは、大阪の關西諸國に於けるが如くにじて、共に其の方面的商業を支配せり。名古屋も亦、其の間に在り

て、大に附近の商業を支配す。日本海面の地にして、東京又は名古屋に近きも、未だ鐵道の設けあらざる所は、其の產物、汽船の便によりて、大阪に廻るもの多し。然れども、此の方面的商品、敦賀よりして、鐵道により、大阪又名古屋に至るものなしとせず。東京・大阪・名古屋の他、東海道に在りては、横濱・靜岡・東山道に在りては、仙臺、北陸道に在りては、金澤・富山・高岡・敦賀、畿内に在りては、神戸・山陽道に在りては、岡山・廣島・馬關・山陰道に在りては、境・南海道に在りては、和歌山・徳島・西海道に在りては、福岡・長崎・熊本・鹿兒島・北海道にては、函館等、皆な内地商業上の樞區たり。

帝國の政體と臣民　日本帝國の政體は、立憲政體にして、主權は、天皇之を總攬し給ひ、其の下に立法・司法・行政の三機關あり。立法權は、帝國議會之を司る。帝國議會に貴族院・衆議院の二あり。

司法權は、裁判所之を司る。裁判所に大審院控訴院等の階級あり。行政權は、政府之を司り、上に内閣ありて、九省之に隸屬す。又宮省内ありて、帝室の事に任じ、樞密院ありて、天皇最高の顧問に應ず。地方にては、臺灣に總督府ありて、總督之に長たり。北海道に道廳ありて、長官之に首たり。府に府廳、縣に縣廳ありて、知事之を統轄し、市に市役所、區に區役所、郡に郡役所、町に町役場、村に村役場ありて、各長あり。府・縣・市・區・郡・町・村に各議會ありて、管内公共の事を議す。

日本國民の大部を組織せる大和民族は、皇祖・皇宗の親愛し給ひし、支族の裔にして、皇室と臣民との間には、自ら宗支の關係ありて、臣民の皇室を仰ぐこと、父母の如く、皇室の臣民を視為ふこと、子の如し。大和民族の外、又、アイノ種族・臺灣種族あり。皆

給ふこと、子の如し。大和民族の外、又、アイノ種族・臺灣種族あり。皆吾が皇化に霑へり。現時、日本人民には、皇族・華族・士族・平民の別ありて、華族に、公・侯・伯・子・男爵の五等あり。

帝國臣民にして、滿十七歳より、滿四十歳までの男子は、總て兵役に服するの義務あり。兵役は、分かちて常備兵役・後備兵役・補充兵役・國民兵役とす。帝國臣民は、又、納稅の義務あり。國稅・地方稅・市町村費等を負擔すべきものとす。

改訂帝國地理教科書 畢

附

錄

帝國周國面積人口表

(島嶼ハ四國九州一島以上ノ者ノ面積ス、但シ一島以下ト同)

總計	本島	屬島數	土地		周	國	面積	人口
			本地	屬島				
四八六	一四七	二九	一五	一一一	一六六	一九五三	一九五三	一四四九
五五六一	人	五三	三一五	七二	一九〇六	一九〇六	一九〇六	一四五七
一九〇六	一九〇六	四九	三〇〇	一八六	一九〇六	一九〇六	一九〇六	三二〇〇七五二九
七四六七	二六六三一	四三一	三五二	三一五	一〇六	一〇六	一〇六	二九二九六三九
二七八八八	四五四一五四四〇	二七八八八	一五七	一五七	一五七	一五七	一五七	一八九四八五

畿道面積人口表

		明治二十一年一月一日現在												
		面積					人口							
		分	界	面	積	人	口	方	里	密	度			
		北	東	南	西	山	海	山	海	海	山	海	北	
道府縣別面積人口表		對	流	鐵	鐵	山	海	山	海	海	山	海	對	
總計		岐	馬	球	內	道	道	道	道	道	道	道	對	
明治二十一年		六九一九	六八四八	二六二一	二五七二	一六〇〇	一五七三	一四三三	一二二一	一四四五	二五八	四四	九	
人口		四八五〇〇〇	九〇三〇〇〇〇	六〇一七〇〇〇	九七二九〇〇〇	三八五五〇〇〇	四二〇四〇〇〇	三九八五〇〇〇	二六六六〇〇〇	二六〇七〇〇〇	四三八〇〇〇〇	三六〇〇〇〇〇	四二二八五〇〇〇	二五四三三
面積		七〇	一三一九	二三九六	三七八三	二四〇九	二六七三	二六七八	二六七九	五八五八	一六九七	七五〇	四〇〇〇〇	二九三一五
密度		北	東	南	西	山	海	山	海	海	山	海	北	對

道府縣別面和ノ印表

卷之二

國別面積人口表 人口明治二十九年十二月三十一日現

人口明治二十九年十二月三十一日現在

本書所出ノ一萬以上都邑表

（臺灣都邑ノ人日ハ精霊ニ謂焉シ
タルモノノ氣キテ以テ之ヲ省クシ

卷之三

14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
國立駒ヶ岳	八駒館	赤白乘	御穗	富士山	新高								
司岳	ヶ岳	ヶ石	鞍嶺	高綠	士高								
岳邊	甲斐岳	嶺岳	邊岳	山山	山山								
八四八八	九五〇四	九六六九	九九〇〇	九二〇四	一〇、二〇九	一〇、三九五	一〇、四四八	一〇、五〇七	一一、一四三	一二、三三二	二二、四六七	二二、八五〇	
28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15
石白越	魅那山	惡山	燒山	高山	妙山	甲山	淺山	日山	岩山	驛山	館山	金	
魏													
山山	岳山	山山	後山	山山	岳山	山山							
七七八八	七七八一	七七八六	七九二〇	七九五三	八〇〇三	八〇九八	八一二四	八二一七	八三〇〇	八三四九	八四一八	八四一八	
42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
早雲朝	彌帝	石赤	黑島	池鰯	岩								
池取		釋狩	安										
墨山	山山	山岳	山山	山山	山岳	山山	山山	山山	山山	山山	白根山	上野山	阿
六六〇〇	六六〇三	六七三二	六八四〇	六九九六	七〇七五	七〇八八	七一一八	七三九二	七四九一	七五四四	七五四四	七七七八	
56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43
市九	山上ヶ	姫赤	那馬	月梨									
房重	獄神	城須	カ梯										
山山	峯山	山岳	岳山	山山	山山	山山	山山	山山	山岳	山岳	山岳	山岳	
六〇〇六	六一四八	六二〇四	六二一七	六二四七	六三一〇	六四一二	六四八一	六四八五	六五〇〇	六五一〇	六五五七	六五六一	

本書所出，三千三百尺（一千米）以上署名高山西

126	125	124	123	122	121	120	119
山茨奈香愛德愛大							
口城良川知島坂分							
周常大殿尾阿伊豐							
防陸和岐張波櫻後							
總石郡觀津小字大							
音島松和分							
山岡山寺島島							
村町町町村町附町							
一一六七〇	一一五八七	一一五三九	一一五三九	一一五三九	一一五三九	一一五三九	一一五三九
一一三四九	一一三七二	一一三八三	一一三四二	一一四八二	一一四八二	一一四八二	一一四八二
157	156	155	154	153	152	151	
新福熊和歌							
渴島本山川分賀							
越岩肥紀能豊近							
後代後伊登後江							
三郡八湯輪白長							
條山代淺島杵濱							
町町町町町町							
一一〇、四四二	一一〇、三七九	一一〇、三四三	一一〇、三五八	一一〇、二三五	一一〇、二二九	一一〇、二一九	一一〇、二一九

本舊所出，周回四里以上著名湖沼表

本書所出ノ本流二十里以上著名河川表

第一	區	海	軍	區	第	十	第	十	第	十	第	二	東京
第二	區	軍	區	第	六	五	四	三	二	仙	第	一	東京
第三	區	軍	區	第	熊	廣島	大阪	名古屋	仙	第	二	一	東京
第四	區	軍	區	第	廿三	十一	十九	第十	第	十五	第	三	新仙
第五	區	軍	區	第	大村	熊山	廣島	伏見	第	十七	第	五	發田
第六	區	軍	區	第	本	口	島	大阪	第	五	第	三	新仙
第七	區	軍	區	第				豊橋	第	七	第	二	發田
第八	區	軍	區	第				名古屋	第	十	第	一	前澤
第九	區	軍	區	第				仙	第	五	第	二	弘前
第十	區	軍	區	第				金	第	三	第	一	弘前
第十一	區	軍	區	第				澤	第	九	第	一	弘前
第十二	區	軍	區	第				路	第	十	第	二	弘前
第十三	區	軍	區	第				姫路	第	八	第	一	弘前
第十四	區	軍	區	第				澤	第	六	第	一	弘前
第十五	區	軍	區	第				金	第	八	第	二	弘前
第十六	區	軍	區	第				敦賀	第	六	第	一	秋田
第十七	區	軍	區	第				金澤	第	四	第	一	秋田
第十八	區	軍	區	第				前川	第	六	第	一	秋田
第十九	區	軍	區	第				前田	第	四	第	一	秋田
第二十	區	軍	區	第				前田	第	二	第	一	秋田
第二十一	區	軍	區	第				前田	第	八	第	一	秋田
第二十二	區	軍	區	第				前田	第	六	第	一	秋田
第二十三	區	軍	區	第				前田	第	四	第	一	秋田
第二十四	區	軍	區	第				前田	第	二	第	一	秋田
第二十五	區	軍	區	第				前田	第	八	第	一	秋田
第二十六	區	軍	區	第				前田	第	六	第	一	秋田
第二十七	區	軍	區	第				前田	第	四	第	一	秋田
第二十八	區	軍	區	第				前田	第	二	第	一	秋田
第二十九	區	軍	區	第				前田	第	八	第	一	秋田
第三十	區	軍	區	第				前田	第	六	第	一	秋田
第三十一	區	軍	區	第				前田	第	四	第	一	秋田
第三十二	區	軍	區	第				前田	第	二	第	一	秋田
第三十三	區	軍	區	第				前田	第	八	第	一	秋田
第三十四	區	軍	區	第				前田	第	六	第	一	秋田
第三十五	區	軍	區	第				前田	第	四	第	一	秋田
第三十六	區	軍	區	第				前田	第	二	第	一	秋田
第三十七	區	軍	區	第				前田	第	八	第	一	秋田
第三十八	區	軍	區	第				前田	第	六	第	一	秋田
第三十九	區	軍	區	第				前田	第	四	第	一	秋田
第四十	區	軍	區	第				前田	第	二	第	一	秋田
第四十一	區	軍	區	第				前田	第	八	第	一	秋田
第四十二	區	軍	區	第				前田	第	六	第	一	秋田
第四十三	區	軍	區	第				前田	第	四	第	一	秋田
第四十四	區	軍	區	第				前田	第	二	第	一	秋田
第四十五	區	軍	區	第				前田	第	八	第	一	秋田
第四十六	區	軍	區	第				前田	第	六	第	一	秋田
第四十七	區	軍	區	第				前田	第	四	第	一	秋田
第四十八	區	軍	區	第				前田	第	二	第	一	秋田
第四十九	區	軍	區	第				前田	第	八	第	一	秋田
第五十	區	軍	區	第				前田	第	六	第	一	秋田
第五十一	區	軍	區	第				前田	第	四	第	一	秋田
第五十二	區	軍	區	第				前田	第	二	第	一	秋田
第五十三	區	軍	區	第				前田	第	八	第	一	秋田
第五十四	區	軍	區	第				前田	第	六	第	一	秋田
第五十五	區	軍	區	第				前田	第	四	第	一	秋田
第五十六	區	軍	區	第				前田	第	二	第	一	秋田
第五十七	區	軍	區	第				前田	第	八	第	一	秋田
第五十八	區	軍	區	第				前田	第	六	第	一	秋田
第五十九	區	軍	區	第				前田	第	四	第	一	秋田
第六十	區	軍	區	第				前田	第	二	第	一	秋田
第六十一	區	軍	區	第				前田	第	八	第	一	秋田
第六十二	區	軍	區	第				前田	第	六	第	一	秋田
第六十三	區	軍	區	第				前田	第	四	第	一	秋田
第六十四	區	軍	區	第				前田	第	二	第	一	秋田
第六十五	區	軍	區	第				前田	第	八	第	一	秋田
第六十六	區	軍	區	第				前田	第	六	第	一	秋田
第六十七	區	軍	區	第				前田	第	四	第	一	秋田
第六十八	區	軍	區	第				前田	第	二	第	一	秋田
第六十九	區	軍	區	第				前田	第	八	第	一	秋田
第七十	區	軍	區	第				前田	第	六	第	一	秋田
第七十一	區	軍	區	第				前田	第	四	第	一	秋田
第七十二	區	軍	區	第				前田	第	二	第	一	秋田
第七十三	區	軍	區	第				前田	第	八	第	一	秋田
第七十四	區	軍	區	第				前田	第	六	第	一	秋田
第七十五	區	軍	區	第				前田	第	四	第	一	秋田
第七十六	區	軍	區	第				前田	第	二	第	一	秋田
第七十七	區	軍	區	第				前田	第	八	第	一	秋田
第七十八	區	軍	區	第				前田	第	六	第	一	秋田
第七十九	區	軍	區	第				前田	第	四	第	一	秋田
第八十	區	軍	區	第				前田	第	二	第	一	秋田
第八十一	區	軍	區	第				前田	第	八	第	一	秋田
第八十二	區	軍	區	第				前田	第	六	第	一	秋田
第八十三	區	軍	區	第				前田	第	四	第	一	秋田
第八十四	區	軍	區	第				前田	第	二	第	一	秋田
第八十五	區	軍	區	第				前田	第	八	第	一	秋田
第八十六	區	軍	區	第				前田	第	六	第	一	秋田
第八十七	區	軍	區	第				前田	第	四	第	一	秋田
第八十八	區	軍	區	第				前田	第	二	第	一	秋田
第八十九	區	軍	區	第									

附錄

第三	筑前國前國界ヨリ九州四海岸ニ沿ヒ日向國南那到南諸縣郡界ニ至ルノ 海岸海面及壹岐對馬沖繩諸島ノ海岸海面	肥前國東彼杵郡佐世保港
第四	石見長門國界ヨリ羽後陸奥國界ニ至ルノ海岸海面及隱岐佐渡ノ海岸 海面	丹後國加佐郡舞鶴港
第五	北海道陸奥及陸中國北九戸南九戸兩郡ノ海岸海面	肥前國室蘭郡室蘭港

十四

明治三十二年二月三十日印
明治三十二年二月廿七日發行
明治三十三年二月九日訂止再版發行

刷行刷
行

定價金六拾五錢

東京市神田區裏神保町一一番地

發編
行纂
者兼

龜井忠一

磯 橘

吉

東京市京橋區弓町二十四番地



版權
所有

印刷所

東京市京橋區弓町二十四番地


發賣所

東京市神田區裏神保町一一番地

三協合資會社

98

附箇アレ民別冊トナビリ



M

022701-001-4

74-988

帝国地理教科書（改訂版）

龜井 忠一／編

M32

ADB-0482



M

022701-001-4

74-988

帝国地理教科書（改訂版）

龜井 忠一／編

M32

ADB-0482

